

平成 20 年度配合飼料上昇対応生産性向上にかかる取組状況について

1 飼養技術等の普及について

(1) 全国段階

平成 20 年度第 1 回配合飼料価格上昇対応生産性向上推進会議を実施し、生産性向上に資するための行動計画等を策定するとともに、モデル地域の設定を依頼。

(2) ブロック段階

本年 7 月までに 8 ブロックにおいてブロック会議を開催し、推進体制を確認するとともに地域ごとの行動計画等の策定。

(3) 地域段階

順次、地域ごとの取組を推進。

① 相談窓口の設置

本年 4 月から、すべての道府県ごとに「相談窓口」を設置し、生産者等からの相談を受け付けるとともに、相談した生産者等に対し助言・指導等を実施。

② 生産者等への巡回指導等

県畜産会等の相談員等が生産者等を巡回し、現場を確認した上で、助言・指導を実施。

③ 現地技術検討会や勉強会等の実施

生産者等を対象とした、技術検討会や勉強会等を準備のできた地域から順次実施

④ モデル地域の設定

全国で乳用牛 21 地域、肉用牛 25 地域、養豚 11 地域、養鶏 2 地域の合計 59 地域で設定され、生産性向上の取組を実施。

2 家畜改良の促進について

8 月末までに、改良増殖にかかる各種検討会等を開催するとともに、以下について遺伝的能力評価値を公表

乳用牛 4 回（ホルスタイン種 3 回、ジャージー種 1 回）

豚 2 回（パークシャー、ランドレス、大ヨークシャー、デュロック）

3 未活用等資源の飼料化促進

(1) DDGS

DDGS については、本年 6 月に利活用に関する検討会を開催し、一層の利用拡大を推進しているところ。

(2) 飼料用米

飼料用米については、現地実態調査を実施するとともに、モデル実証を全国的に推進しているところ。

なお、本年 10 月に飼料用米の利活用にかかる検討会を開催予定。